果敢に挑み 未来を開こう

やまがた中小企業元気再生シンポジウム

本県経済の原動力である中小企業のパワーアップに向けた機運を高めようと、「やまがた中小企業元気再生シンポジウム」がこのほど、山形市のホテルメトロポリタン山形で開かれた。中小企業は県内企業の99.9%を占め、労働者の3/5が雇用されていることから、中小企業の再生は県内経済の最重要課題といえる。シンポジウムでは、中村智彦・神戸国際大教授の基調講演や、元気な中小企業の事例紹介、講演者によるトークセッションが行われた。

基調講演

中小企業の強みと可能性
～山形の経営者への提言～

神戸国際大学経済学部教授 中村 智彦氏

大企業メーカーに代表される日本の製造業は今、元気がない。これまで就業に追いつこうと努力し、効率性は抜群だと言われていた。ただ、この先どこに向かって走っていたらいいのか、目標がなくなってしまったと思います。そうさせないと強烈に思ったのが、韓国のことは韓国についても言えるが、韓国は日本に追いつき追い越せで頑張ってきた。追っていたときの考え方は、もうやめた方がいい。

情報競争の時代

先日、ヨーロッパはギリシャ、イタリアなどの経済危機が続いている。情報産業は大阪でも頑張っている。

自ら動き 激変を乗り切ろう

求められる「営業力」

日本は「これ良いものをよ」と言っ過ぎた。

インターネットによる情報収集、交流をはじめとして、産業構造ネットワークが各地方の中小企業に、これを向けたヒントを。

岡本 東京の「キラリと光る経営」の視点は地方からしか出てこないと話していた。東京には何もかも集中し過ぎ、「選択と集中」ができないから、個性的なものが出てこない。その観点に、地方での成功があるのだと思う。

國廣 個性的なものを見つけるということでは、自分が興味なんたちと連携することも必要。個人や企業同士の連携をもっと進めながら、公的機関の支援をあおぐような形が望まれる。

中村 今までの話で共通していたのは、まず「楽しいことをやりましょう」、楽しくなければ人も集まらない。経営面のやる気も出ないし、もう一つは「見に行こう」ということ。東京でもどこでも、いいものを見に行くことで、自分にもいいものがたくさんあることに気付く。「元気再生」の種はたくさんあると感じた。

冬季五輪を目指す、モノづくり大田区からの挑戦。

「町ボプスレーネットワークプロジェクト」事務局長
有限会社ジャパンパーツ代表取締役 國廣 愛彦氏

ボプスレー世界へいざ

東京都大田区の中小企業を中心に進めている「町ボプスレーネットワークプロジェクト」に参加している「ボプスレーは、そりで氷上を滑走し、タイムを競うウインタースポーツ。「氷上のF1」と称され、フェラーリ、BMWなどなどの国産を手掛けている。

「日本人のための日本人による、初のメード・イン・ジャパンのそり」を、大田区の企業が中心となって開発し、冬季五輪の日本代表チームを出場しようという プロジェクト。開発・製造には大田区内の企業を中心に、カーボン製ボディーの専門家など約20社が参加している。

大田区には約3千の町工場があり、機械・金属加工などの分野で強みを持っている。そして日本のモノづくりの技術性を世界に示し、町工場を盛り上げていきたいという思いから、企業・産業界の多くの企業が賛同して、本格的に動き出している。

私たちは小企業は、大企業からの下請けとは違った体験から製品を、「感動」の意識を高めていかなければならない。一番いいのは金は、いいものをつくっていても、PRがかなかできない。プロジェクトを通して、大田区のものづくりに対する意識が高まり、販売活動も始まりつつある。また、誰もが参加できる感動に もつながっている。

プロジェクトの事務局は大田区産業振興協会内に置いており、大田区の製造業が結集するなどの応援を頂いている。企業と応援隊、そして産業界、大田区の製造業が結集するなどの応援を頂いている。

「北海道開発を進めれば、大田区のものづくり」が世界に知られることになる。それを原点に、「大田区ブランド」を世界に発信し、世界中から受注できる夢を実現したい。

株式会社ドンドンアップ 成長の軌跡と秘訣

株式会社ドンドンアップ代表取締役 岡本 昭史氏

集客の鍵「変てこりん」

自転車サイクルショップ「ドンドンアップ」を、山形市内で店舗展開している。山形県内では山形市、米沢市で計4店舗を展開している。

業界初の「見本市」に参加し、「ドンドンアップ」を取り入れ、「ドンドンアップ」を買い取り、システム取り入れ、毎日がお祭りのように、明るく楽しい雰囲気のショップで賑わいを見せている。

店内にあふれている商品は、「変てこりん」なものが多い。「変てこりん」というところが魅力。

店舗の市場は地元が多い。「売り」、買い手、社会の全てにメリットがある「三方良し」のビジネスモデルは日本一を目指している。店舗数を倍に拡大、百貨リニューアル日本の営業を目指したい。

「やっぱりなあ」「変てこりん」「変わってしまったなあ」と言ってもらえるような、変な感覚を楽しんでもらえるよう、アンテナをアメリカ中心に向けて、「変てこりん」を、「変てこりん」を、「変てこりん」を